

△第一四回V句会

夜食・芒・残暑(秋暑し)・西鶴忌・稻妻

村上谿聲 選 ◎特選 ◇佳作 (囲い文字は特選互選句 E x, ㊦)

◎句の一つ出来ず暮れゆく西鶴忌

※井原西鶴は俳諧に浮世草子に大衆名作をもつてならしたものだ。それに引きかえ
四苦八苦して苦吟している自分の哀れな事よという諧謔性が面白い

◎遠祖も通りし畦や曇珠沙華

※「生きかばり死にかはりして打つ田かな」の鬼城句を思い出す。

◎書出しの文決めかねつ秋暑し

※真夏の熱気も辛いが大気がゆるんでから又ふり返す残暑は、手紙の書き出し文

にも氣力を振り絞り絞らなくてはその氣になれないものだ。

◎稻妻におののき思ふ9・11

※まさに現代を注視して作句している。「9・11」の表現により、何も言わずに多

くのことを語っている。稻妻の季語の使い方が象徴的でうまい。

◎門火焚く父若きまま帰りけり

◎鬼芒淨瑠璃坂の死闘跡

◇稻光夜空さきわけいざこへか

◇土濡るるほどには降らず秋の蝶

◇古屋敷大の字となる残暑かな

◇外風呂に入りてひとりの残暑かな

◇稻妻に花街しばし昔の絶え

◇敬老といふ日暑さ土渴求

◇微風さへ捉へて見せる芒かな

◇花芒夕日に礼を言ふごとく

◇そつと置く夜食は母のぬくもりを

◎秋深し夜食のうどんなつかしや

◎芒野に月が輝き犬走る

互選高点句・特選句より

五点 古屋敷大の字となる残暑かな

三点 川舟や祖父の通勤花芒

二点 土濡るるほどには降らず秋の蝶

芒分け四界を得たり峠道

夜食などなかりし頃の受験生

書出しの文決めかねつ秋暑し

花芒夕日に礼を言ふごとく

そつと置く夜食は母のぬくもりを

谿聲作

なほ流行る人情ものや西鶴忌

振り仰ぐ大和の天や稲光

次回は十一月二十一日(水)

兼題

赤い羽根・神の留守・新米・賜(百舌・百舌鳥)・添水(僧都)